

【4-8 定性的システマティックレビュー】

<b>CQ</b>	5b	術前化学療法後にセンチネルリンパ節生検による腋窩リンパ節郭清の省略は推奨されるか（臨床的リンパ節転移陽性症例が術前化学療法施行後、臨床的リンパ節転移陰性が確認された場合）
<b>P</b>	原発性浸潤性乳癌 例	かつ 化学療法施行前腋窩リンパ節転移陽性 かつ 化療後臨床的腋窩リンパ節転移陰性症例
<b>I</b>	センチネルリンパ節陰性の場合腋窩温存、センチネルリンパ節陽性の場合腋窩郭清（センチネルリンパ節生検による腋窩個別化治療）	
<b>C</b>	なし	
<b>臨床的文脈</b>		臨床的リンパ節転移陽性症例が術前化学療法施行後にリンパ節転移陰性と判断された症例に対して、センチネルリンパ節の転移状態により腋窩郭清の適否を決定することは診断、治療として妥当であるか？
<b>01</b>	全生存率の低下	
<b>非直接性のまとめ</b>	単施設でアウトカム測定値は同じであるが、術前治療の違い、SNB施行のトレーサーの違いあり。対照はバラツキあるため、非直接性はややおとる	
<b>バイアスリスクのまとめ</b>	アウトカム測定検出は同じだが、フローアップ期間が短く、盲検化できず、背景因子にばらつきあるとみなされるため、バイアスリスクは大きいとみなす。	
<b>非一貫性その他のまとめ</b>	単施設、単一群、論文2編のみため非一貫性は大きいとみなす	
<b>コメント</b>	全生存率について報告している数少ない2論文のため評価はむずかしい	
<b>02</b>	無病生存率の低下	
<b>非直接性のまとめ</b>	単施設でアウトカム測定値は同じであるが、術前治療の違い、SNB施行のトレーサーの違いあり。対照はバラツキあるため、非直接性はややおとる	
<b>バイアスリスクのまとめ</b>	アウトカム測定検出は同じだが、フローアップ期間が短く、盲検化できず、背景因子にばらつきあるとみなされるため、バイアスリスクは大きいとみなす。	
<b>非一貫性その他のまとめ</b>	単施設、単一群、論文2編のみため非一貫性は大きいとみなす	
<b>コメント</b>	無病生存率について報告している数少ない2論文のため評価はむずかしい	
<b>03</b>	腋窩再発率の上昇	
<b>非直接性のまとめ</b>	単施設でアウトカム測定値は同じであるが、術前治療の違い、SNB施行のトレーサーの違いあり。対照はバラツキあるため、非直接性はややおとる	
<b>バイアスリスクのまとめ</b>	アウトカム測定検出は同じだが、フローアップ期間が短く、盲検化できず、背景因子にばらつきあるとみなされるため、バイアスリスクは大きいとみなす。	
<b>非一貫性その他のまとめ</b>	単施設、単一群、論文2編のみため非一貫性は大きいとみなす	
<b>コメント</b>	腋窩再発率について報告している数少ない2論文のため評価はむずかしい	
<b>06</b>	患側上腕に対する合併症・後遺症の軽減	
<b>非直接性のまとめ</b>		
<b>バイアスリスクのまとめ</b>		
<b>非一貫性その他のまとめ</b>		
<b>コメント</b>	論文なし	

【4-8 定性的システマティックレビュー】

<b>CQ</b>	5b	術前化学療法後にセンチネルリンパ節生検による腋窩リンパ節郭清の省略は推奨されるか (臨床的リンパ節転移陽性症例が術前化学療法施行後、臨床的リンパ節転移陰性が確認された場合)
<b>P</b>	原発性浸潤性乳癌 例	かつ 化学療法施行前腋窩リンパ節転移陽性 かつ 化療後臨床的腋窩リンパ節転移陰性症
<b>I</b>	センチネルリンパ節生検+腋窩郭清	
<b>C</b>	なし	
<b>臨床的文脈</b>		臨床的リンパ節転移陰性症例が術前化学療法施行後にもリンパ節転移陰性と判断された症例に対して、センチネルリンパ節の転移状態により腋窩郭清の適否を決定することは診断、治療として妥当であるか？
<b>04</b>		センチネルリンパ節同定率の低下
<b>非直接性のまとめ</b>		アウトカム測定値は同じであるが、介入時の術前薬物治療の違い、SNB施行時のトレーサーの違いなどあり。対照は19編をまとめたSRでありバラツキあるため、非直接性はややおとる
<b>バイアスリスクのまとめ</b>		アウトカム測定検出は同じ、フローアップ不要、ケアに差はできないが、背景因子にばらつきあるとみなされるため、バイアスリスクはややおとる
<b>非一貫性その他のまとめ</b>		メタ解析がしてあり、同定率のForest plots, I <sup>2</sup> 異質性は88%で大きい。出版バイアスはみられない。非一貫性はややあり。
<b>コメント</b>		19編の論文からのSRメタ解析、同定率 90.9% [95% CI 87.6% to 93.4%]
<b>05</b>		偽陰性率の上昇
<b>非直接性のまとめ</b>		アウトカム測定値は同じであるが、介入時の術前薬物治療の違い、SNB施行時のトレーサーの違いなどあり。対照は19編をまとめたSRでありバラツキあるため、非直接性はややおとる
<b>バイアスリスクのまとめ</b>		アウトカム測定検出は同じ、フローアップ不要、ケアに差はできないが、背景因子にばらつきあるとみなされるため、バイアスリスクはややおとる
<b>非一貫性その他のまとめ</b>		メタ解析がしてあり、同定率のForest plots, I <sup>2</sup> 異質性は71%で大きい。出版バイアスはみられない。非一貫性はややあり。
<b>コメント</b>		19編の論文からのSRメタ解析、偽陰性率 13.0% [95% CI 10.8% to 15.6%]